

LC 推進委員会、FALC 関連報告(吉岡正和、2006 年 4 月 25 日)

第 7 回 FALC 会合概要

日 時 平成 17 年 11 月 4 日(金) 9:00～16:00

場 所 Fermilab Room 1-East

出席者 委員 13 名

[イタリア]	Roberto Petronzio (INFN 理事長)ー議長
[イタリア、CERN]	Enzo Iarocci (INFN, CERN 評議会議長)
[英国]	Richard Wade (FALCRG 議長、PPARC 議長代理)、 Janet Seed(秘書、PPARC)
[日本]	斎藤尚樹 (MEXT)
[米国]	Ray Orbach (DOE 科学局長)、 Robin Staffin(DOE-HE オフィス副所長)、Jeffery Salmon(DOE)
[フランス]	Michel.Spiro (CNRS・原子核・素粒子物理部長)
[ドイツ]	Beatrix Vierkorn Rudolph (基礎研局次長)
[韓国]	Dongchul Son (CHEP)
[カナダ]	Walter Davidson
[CERN]	Robert Aymar(所長、電話のみの参加)
招待、オブザーバー 4 名	
[ILCSC]	黒川眞一 (ILCSC 議長、日本 KEK)
[GDE]	Barry Barish (GDE 所長、米国 CALTECH)
[米国]	P. Oddone (Fermilab 所長、米国、Fermilab 報告のみ)
[日本]	吉岡正和 (KEK、山内氏代理)

主な議事;

- ・議事メモ確認、
- ・Fermilab 所長報告、
- ・各人意見表明、
- ・GDE 所長報告、
- ・FALCRG 報告、
- ・CERN 所長との電話、
- ・ILCSC 議長報告および議論

1. 細かなことはさておき、(1)GDE コモンファンドの分担の仕方を決めたこと、(2)FALC 小委員会設置の二つが重要事項である。また ILCSC 議長報告では ILCSC と GDE の関係が整理されたことも注目に値する。

2. GDE 報告で年表が提示されたが、Reference Design の次のステップへの相転移の仕方と、GDE の役割外である Hosting や International Management の動き、ILCSC や FALC の役割など最後はかなり意見交換した。結果、上記1(2)にあるとおり、議長から各地域から 1 名の代表(*)を出して議長とともに FALC の役割拡大 (Evolution) の議論を進めるため、FALC に小委員会を設置することが提案され、承認された。この小委員会は、ILC が関係各国の政府の関与する次の段階に進む際に、FALC をどのように改編するのかを議論することになるが、ただし各国代表からは時期尚早との声もある。また ILCSC においてもこの件について議論することが表明された。

(*)米国からは R.Staffin(DOE)、欧州からは M.Spiro(IN2P3)が登録されている。アジアについては山内正則氏(MEXT 科学官)を通じて野崎光昭(KEK 素核研副所長)を登録した。なお、野崎光昭氏の登録にあたっては、アジアの関係各国との調整が困難であることから、野崎氏についてはアジアを代表する立場で参加することが出来ない旨を付帯意見として伝達した。

3. FALCRG からは GDE コモンファンド分担方法につき報告があり、3 種類の方法が示され、FALCRG では合意に至らなかったが、上記1(1)のとおり結局アジア、北米、欧州の 3 地域等分とすることが決まった。

◆以上